

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)箱根強羅旅館計画(南敷地)	階数	地上4階地下2階
建設地	足柄下郡箱根町強羅字強羅1300-6,1300-375	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	300人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2018年9月12日
敷地面積	4,002 m ²	作成者	(株)入江三宅設計事務所
建築面積	1,238 m ²	確認日	2018年9月12日
延床面積	5,916 m ²	確認者	(株)入江三宅設計事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (184 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 97% (178 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 97% (178 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 97% (178 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0

音環境	3.1
温熱環境	3.0
光・視環境	3.0
空気質環境	3.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2

機能性	3.8
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	2.6

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.0

生物環境	3.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.4

建物外皮の熱負荷	4.3
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	3.4
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.4

水資源	3.0
非再生材料の使用削減	3.3
汚染物質回避	4.3

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.0

地球温暖化への配慮	3.1
地域環境への配慮	3.0
周辺環境への配慮	3.0

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>強羅だけが有するポテンシャルを、計画の幹に据えて以下を展開し、この宿だけにしかない魅力を創出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然そのものの造形および素材を活かし、心に響くシーンを創出する。 ・別荘が持つ豊かな時間の過ごし方を実現する、多様な空間構成とする。 ・和風旅館のたたずまいを、木工事の手作業にこだわり新たな和のデザインを創出する。 	<p>地域に自生するヒメシャラの他、多様な常緑樹、落葉樹により、豊かな緑地空間を形成する。</p>
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>施設利用者にとっての良好な環境性能を確保すべく、開口部の遮音等級T-2を確保した。</p>	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4>
<h4>LR1 エネルギー</h4>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4>
<h4>LR3 敷地外環境</h4>	<h4>LR3 敷地外環境</h4>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される